

# こども通信

7月に入りました。一年の半分が

過ぎ、今年も後半に。相変わらず「コロナ」に振り回されています。ワクチンが進み、普通の生活に戻るのはいつになるでしょう。

梅雨の末期の大雨や、真夏の猛暑

など、過ごしにくい日が続きます。どっぞ「自愛ください。」

もうすぐ東京オリンピックが開催されようとしています。この「コロナ」の状況で、

本当にやるの？と今でも疑問です。

東京では感染者数がまた増加に転じて「第5波」に。新たな変異種も問題になっています。

今の日本では、まだワクチンが十分に行き渡っていません。ようやく高齢者の接種に目処がたちました。が、感染の中心になる若い世代の接

種はこれから。

海外から多くの選手、役員などを受け入れれば、新たな感染の火種になることは分かっていきます。そこに「お祭り騒ぎ」をすれば、一挙に感染が広がることでしょう。

「コロナ患者に対応する医療体制も十分ではなく、これから一体どうなるのか、とても心配です。」



そもそも真夏の東京は熱中症のリスクがとても大きく、イベントには適しません。選手だけでなく、応援する観客（子どももいます）などにも命の危険を生じさせます。

あるアルピニストが「登山なら遭難する」と言いました。登山家にとっては引き換えすのも勇気ある決断。ここは勇気を持って中止または延期して欲しいと願っています。

**塚田こども医院**

小児科・アレルギー科

上越市栄町 2-2-25

TEL 025-544-7777(代)

025-544-7779(保育室)

FAX 025-544-8456

各種ネット予約

www.0255447777.com/j

ホームページ

www.kodomo-iin.com

## 感染症情報

RSウイルス感染症が大きな流行になっています。気管支炎や肺炎を起こすことが多い感染症で、特に乳児がかかると酸素投与が必要な状態になることもあります。以前は毎年流行があったのですが、昨年から今春にかけては全く発生がありませんでした。春に北陸地方で流行が始まってから、一挙に全国に流行が広がりました。その勢いはとても強く、やはり昨年流行がなく、免疫を持たない子が増えていたからだと言われています。

当院での記録でも、初めての患者発生は6月第2週から。その後、かつてないほどの発生数になっています。さらに、年少児を中心に、呼吸器症状の強い子が少なくありません。伝染力がとても強く、保育園などでの集団発生が数多く発生しています。注意をお願いします。

感染性胃腸炎が少し発生しています。子どもたちは脱水や低血糖になりやすく、ぐったりしている場合は急いで受診してください。

溶連菌感染症とアデノウイルス性咽頭炎が少数ですが発生しています。溶連菌感染症は抗菌薬の治療が必要です。

新型コロナウイルス感染症の発生は、今は当地ではほとんどありません。しかし、都市部などでは新たな変異株が蔓延しつつあるようです。一日も早くワクチン接種が進むことと同時に、地域に持ち込まないよう、十分な対策を続ける必要があります。引き続き十分に警戒してください。

### ●子どものコロナ予防接種●

当地域では12歳～15歳は個別接種で行います。

7月に入り、市から予診票などが各家庭に送られますので、それをよくご覧ください。予約は市が用意するインターネット上のサイトで行います。

当院は7月26日(月)から9月上旬まで接種を予定しています。平日午後のほか、土曜午後にも専門外来を設けます(インフルエンザ予防接種と同じ体制)。

どうぞご利用ください。

## 今月の予定

院長・副院長出務

看護大学生実習 1日～8日

上越有線放送 「健康ライフ」 20日

FM上越「Dr. ジローのこども健康相談」

毎週木曜午後1:20頃～(76.1MHz)

感染症情報(毎週)

FM上越: 木曜午後1:35頃～

上越有線放送: 月曜午後6時～(番組内)

医院ホームページ内

## 新型コロナウイルスワクチン

# 12〜15歳は個別接種

新型コロナウイルス感染症は、未だに治療薬がなく、世界的流行が必ずしも押さえ込まれた状況には至っていません。そんな中で、ワクチン接種は発症予防や重症化防止に対して十分な効果があり、多くの方が受けることで、流行も阻止できるのではないかと、という期待があります。

日本ではまず65歳以上の高齢者から始まり、7月中には相当の方の接種が終わる見込みになりました。次は16歳〜64歳の一般人の方が対象です。自治体によって進捗状況は変わりますが、上越市のように早く進んでいるところでは秋口には完了できるところもあります。

そして次は12歳〜15歳の小児への接種が課題になります。ファイザー社製のワクチンは当初より年齢を引き下げ、12歳以上で使えるようになり、日本もそれを引き継いで適応されました。

治験データによれば、この年齢の効果は十分であることがわかりまし

た。

### ●子どものワクチンのメリットは？

副作用としても、特に大きなものはないとされています。しかし、まだ治験段階のデータであり、実際に使われ出してからさほど期間が立っていません。発達段階にある子どもへのワクチン接種による副作用については、もっと長期に見ていくべきだという意見もあります。

また、子どもがもし新型コロナウイルスに罹患しても、重症になることは少なく、ワクチン接種を受けるメリットは高齢者や成人よりも少ないといえます。

ちなみに子どもの罹患は大人からの感染が多いです。保育園や学校での感染を防ぐためには保育士や教師といった大人がいち早く接種を済ませておくべきでしょう。また家庭内でも、親や祖父母がワクチンを受け、子どもにも移さないようにしていく必要があります。

なお、基礎疾患を持っている子どもはコロナ罹患により重症化するリスクがあり、主治医と相談をして、

ワクチン接種を早めに受けておいた方が良いです。

### ●デメリットは？

中学生（一部小学6年生も）は多感な年頃です。ワクチンそのものの成分に対する副作用ではなく、注射という医療行為に起因する反応を起こしてしまうことがよくあります。

痛いのではないかと警戒し、緊張するだけで立ちくらみを起こすこともあります（血管迷走神経反射）。もし起きた時には横に寝かせて、さらに頭に血液がより流れるように足を高くあげる姿勢をとることで治るでしょう。

今回のワクチンは筋肉注射です。日本のワクチンの多くは皮下注射なので、注射する医師も、受けるお子さんも慣れていません。でも、実際に受けてもらうと分かりますが、ほとんど痛くなく、時に注射したのが分からないくらいで終わります。変に力が入ってガチガチになってしまう方が痛みが出ますので、どうぞリラックスして受けてください。また、立ちくらみは「伝染」する

ことがあります。一人が具合悪くなると、次々に倒れることがあるのです。心因的な要因で集団反応が起きやすいのも、思春期の特徴です。

接種による心の負担が、さまざまな症状を引き起こすことがあります。「予防接種ストレス関連反応」といっています。もちろん本人はウソを言ったり、演技をしているわけではないのですが、ワクチンの液が原因だということではありません。適切な心理的アプローチが解決への方策になります。

### ●子どもは個別接種で

子どもたちが安心して接種を受けられる環境。何かトラブルがあれば、その場できちんと対応できる体制。それは、集団接種ではなかなか難しいので、子どもに対しては個別接種で受けることをお勧めします。できればかかりつけの小児科で、いつもの小児科医が対応できるということだと思います。

上越市や妙高市では、子どもたちは個別接種で行うことになりました。どうぞお役立ててください。